

足速に歩いて行かれる荒木先生

中井 理香（立正大学専任教師）

「荒木先生は、筑波大学の先生。」一瞬にしてそう連想するのがどなたにとっても長年の間当たり前だったと思います。この度、ご定年を迎えられる前に退官され、東京の大学に異動されるというお話を伺ったときは寝耳に水でした。と同時に、常に決断力があって前向きで、切り替えが早い荒木先生のお人柄をしみじみと感じました。

大学院で指導教官になって下さった荒木先生の私への教育方針は、まさに「簡にして要を得ている」でした。詳細に説明されることなく、的を射たコメントを伝えて下さいます。そこから、先生の示唆されたことの意味を汲み取って形にしていく作業は、稚拙な学生だった私にはいつも難題でした。振り返ってみると、なかなか思うようにはかどらない作業について、言い訳や弁解を許されないこの修業時代に、たくさんの貴重な経験をさせて頂きました。現在、職場で学生と向き合うとき、つい先回りして説明過剰になりそうになると、ふと先生を思い出すことがあります。学生の個性と主体性を尊重し、あえて手取り足取り指導せずに見守るという教育は、亀の歩みを個性とする私にふさわしい流儀であり、それはまたレベルの高い方針であることに思い至るようになりました。

逡巡の長かった当時の私は、亀に倣うことを決意し、やがて文学批評理論を歴史記述に援用していく研究を進めるようになりました。そして手がけた「公平論」を荒木先生をはじめ諸先生方に評価していただいたことは、現在の私の原点になっており、本当に感謝しております。博論審査の当日、ある先生から「宝探しをしたね」とコメントを頂きましたが、今にして思えば宝探しをさせて下さったのは荒木先生でした。

日々職場で授業と業務に追われ、慌ただしく過ごしている中、ふと荒木先生が足速に廊下を歩いて行かれるお姿を思い出すことがあります。こんなに忙しい職業でも、先生は常に研究の最前線を切り拓いてこられたのだと頭が下がる思いでいっぱいになります。いまだに亀の習性は抜けない私ですが、今後も先生から頂いた数々のご示唆を少しでも汲み取って、歩みを止めないことでささやかなお返しとさせて頂けたら幸いです。

長い間、筑波大学でお勤めされてこられた先生、本当にありがとうございました。ご健勝を心からお祈り申し上げます。